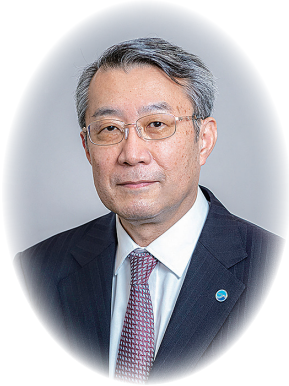
# 理事長メッセージ　～読者のみなさまへ～



令和５年９月
国立研究開発法人海洋研究開発機構

理事長　大和裕幸

国立研究開発法人海洋研究開発機構（以下、「JAMSTEC」）は、一昨年の2021年10月１日に創立50周年を迎え、“Sailing for the Earth, Diving for Science & Technology”のスローガンのもと、次の50年に向けて歩み始めました。

2022年度には、経営企画部にシンクタンク機能を有する未来戦略課を新設するなど、社会とのインターフェース機能拡充に向けた施策を推進いたしました。具体的には、科学技術のみならず国際経済や地政学的な情報収集や分析を行うことで、我が国が進めていくべき課題を具体的に提案し、他機関との連携・協力関係を構築しながら、我が国の海洋科学技術政策に貢献してまいります。また、人材育成に向けた取組みの推進や国民のみなさまとの繋がりをより一層深めていくことを目的として、新たにSTEAM教育へ貢献するための取組みも始めております。これまで蓄積してきた豊富な研究アーカイブスを活用することで、教育現場でも利用し易い教材開発や授業づくりを関係各所とも連携しつつ進めてまいります。今後は「ポストコロナ」の社会を見据え、JAMSTECの外部に向けて積極的なアプローチを進めていきたいと考えております。

本報告書の主題であります環境配慮活動につきましては、主だった指標である「電気」、「燃料油」、「水」、「ガス」、「廃棄物」、「紙」、「温室効果ガス」におきまして、「紙」を除いた全ての指標で、前年度比約２%～約11%の減少という結果になりました。特に「温室効果ガス」については、政府の地球温暖化対策実行計画において、「2013年度を基準として、政府の事務及び事業に伴い直接的及び間接的に排出される温室効果ガスの総排出量を2030年度までに50%削減することを目標とする。」とされているところでありますが、JAMSTECの2022年度の温室効果ガス排出量は初めて70,000t$CO_2$を下回る68,990t$CO_2$となり、2013年度を基準として約41%の削減となりました。このような地道な環境配慮活動が積み重なって、大きな削減効果をもたらしたことは実に喜ばしいことでありますし、今後とも継続して取組んでいく所存であります。

一方、安全衛生に係る活動につきましては、デジタルトランスフォーメーション（DX）による業務効率化やテレワーク及びフレックスを活用した多様な働き方のしやすい職場環境の形成など新たな取組みについて模索を始めております。また、極めて残念なことでありますが、2022年７月に学術研究船「白鳳丸」転落事故において、JAMSTEC創設以来はじめてとなる船上における死亡事故が発生しました。当該事故を受けまして「これまでの実績に甘んじることなく、慣習等にとらわれず、安全に対しては細部の再確認等を行いつつ、常に改善していくことが重要である。」との事故調査部会の提言がなされており、JAMSTEC役職員はこの事故を決して忘れてはなりません。本件につきましては、船上における生活面での規程を整備するなど、再発防止策を2022年度中に講じております。

JAMSTECは、今年度第４期中長期計画期間（2019年４月１日～2026年３月31日）の５年目に突入しております。新型コロナウイルス感染症対策として研究開発活動を一部自粛しておりましたが、今年５月８日をもって新型コロナウイルス感染症の法的位置づけが「５類感染症」に移行したことを受け、今期中長期目標達成に向けて再び活発な研究開発活動を展開してまいります。今後とも、JAMSTECの活動に対するみなさまのご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。